

きずな

創作活動

ポプラ

支援員 當 洋彰

ポプラでは、利用者の希望に基づき、毎月1回、季節感を取り入れて、折り紙や毛糸などを使用して、創作活動を行なっています。5月は、折り紙で紫陽花を作製し、利用者全員の紫陽花を壁に飾り付けました。8月は、折り紙をちぎってハイビスカスのちぎり絵を作製しました。利用者それぞれ、折り紙のちぎり方が違うので、個性豊かなハイビスカスの花が出来上がりました。クリスマスには、少し早いですが、10月に、折り紙で11月には、毛糸でポンポンを作り、繫ぎ



個性的な獅子舞がい〜っぱい (・a・ノ)♪

合わせてクリスマスリースを作製しました。

毛糸をポンポンメーカーに巻きつける作業に夢中になって、創作活動の間を越えてしまうほどでした。利用者から「ポンポンを作る作業は楽しかった。」という声が聞かれました。12月には、画用紙で作った



上手にできたひな人形♪

た顔や体のパーツを貼り合わせたユニークな獅子は、壁に飾り付けを行い、新しい年の招福を願いました。

1月は、画用紙で鬼のお面を作製しました。2月は、トイレットペーパーの芯を使って、折り紙で作った髪の毛、着物を貼り付けてひな人形を作製しました。服の色合いや顔の表情など、利用者一人一人特徴があり、とても印象的でした。これからも利用者一人一人、色々な楽しい作品を作れるような環境をつくっていきます。

令和3年 第61号
 社会福祉法人 賀光会
 救護施設 賀光寮
 障害福祉サービス事業所 (生活介護) ポプラ
 発行人：川端 健高
 藤井寺市藤井寺4-11-8
 TEL 072-955-0653
 FAX 072-955-0905
 E-mail : gakoukai@gone.jp
 http : //gakoukai.gone.jp

陶芸科

賀光寮

支援員 松村 剛志

陶芸科では、茶碗やお皿、置物等の陶芸作品の製作を行なっています。

賀光寮の近所にある「西国五番札所の葛井寺」からは、毎年、干支の土鈴の製作の注文をいただいでいて、今年度も利用者、陶芸

科に所属している利用者の方、陶芸ボランティアの方が、依頼された保育園や幼稚園などに訪問し、実施している陶芸教室については、今年度は、全国的に新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、賀光寮でひとりの感染者も出さないように感染予防対策として、密集・密接を防ぐことが難しいと考え、陶芸教室の開催を自粛させていただきました。

今年度は、今までのような陶芸教室を実施できなかったのですが、何か陶芸を通して物を作る楽しさを味わっていただけに、良い方法はないかと考え、粘土を持ち帰って作品を作っていたいただき、賀光寮の窯で焼く方法で、作品作りを楽しんでいただきました。

今年度は、以前のように、陶芸教室を実施できるように願っています。

ボランティア、職員が協力し、土鈴の製作を行ないました。葛井寺から注文をいただいた400個と、賀光会が関係部署へお送りするたのめ200個、合計600個を製作しました。今年の干支は「丑」で、土鈴製作を行なうにあたり、丑の角が上手く石膏型から抜けず、修正作業で、角を上手く立たせるのが難しく、時間を費やしましたが、納期に間に合わせる事ができました。

また、毎年、近隣の保育園や幼稚園、事業所等から依頼を受け、職員や陶芸

輪 な げ スト ラ ッ ク ア ウ ト

ミニフス エ



～ 賀光寮・ポプラ ～

令和2年 11月25日(水)
11:00～15:00

事務長 伊藤 昌弘
秋の賀光会のイベントといえば、賀光会バザールを毎年10月に行っています。バザールには、毎年、1,000人ほどの地域の方々などご来場いただいでいて、ワイワイ楽しくにぎやかにやらせていただいでいました。しかし、今年度はワクチンや特効薬がない新型コロナウイルスの感染が世界中で広がり、たくさんの方の命が奪われる危険に怯えながら過ごし、自粛した生活が続くことになりました。施設の各種イベントだけでなく、たくさんのご来場者のある賀光会バザールも3密を避けての実施は困難と判断し、来年度まで延期させていただきます。感染予防のため、毎年楽しみにしていた行事やイベントは次々と中止や延期になり、さらに、外出を自粛せざるを得なくなり、この自粛生活に、楽しみをたくさん奪われてしまいました。

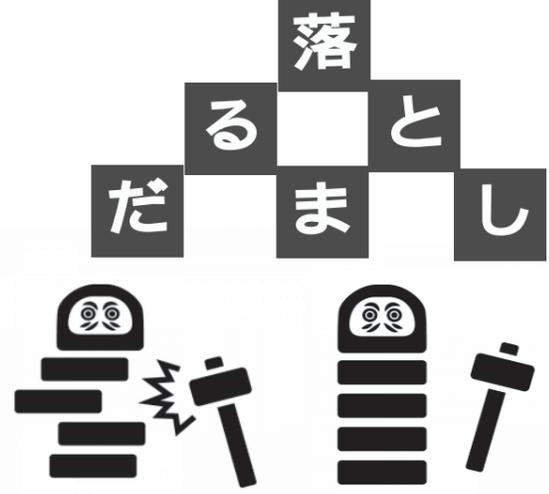


「ミニフェス」では、3種類のゲームの体験していただき、昼食は模擬店風に「たこやき」や「やきそば」をメインにした食事のメニューを用意し、昼間の数時間を楽しんでいただきました。

3種類のゲームは、「わなげ」、「ストラックアウト」、「だるま落とし」で、利用者の皆さんに子供っぽいと思われ、楽しんでいただけないのではないかと少し不安でしたが、ゲームが始まると必死になり、想像以上に盛り上がりました。

今回の「ミニフェス」は、たくさんの方の利用者の方がボランティアで手伝ってくれました。ゲームは準備や片付けだけでなく、ゲームの進行役で盛り上げていただき、昼食の「たこやき」と「やきそば」は、屋台で、昔焼いていましたという経験のある利用者の方が中心となって調理してくれて、まさにプロの味って感じで大変好評でした。

来年度、新型コロナウイルスに怯えながらの生活に終止符が打たれたときは、「このミニフェスの経験を生かして、例年以上に地域の方々に笑顔になってもらえるようなイベントとして、第41回賀光会バザールを実施できるよう準備、企画していきます。



た こ 焼 き 焼 き そ ば



イベント食

栄養士 井土垣 裕子

賀光会では、『食べる楽しみ』や『生きる喜び』を味わっていただくために、毎月1回昼食時に、普段よりも少し豪華なメニューを提供するイベント食を実施しています。

イベント食や季節のメニューは、利用者の方から大変好評をいただいています。12月のイベント食は、23日(水)の昼食に「クリスマスメニュー」として、ミックスサンドウィッチ、サイコロステーキ、グリルチキン、エビフライ、チーズ



美味そうなメニューや～!!

サラダ、ミネストローネ、

そしてデザートのカレーはいちごの



シヨートケーキを提供しました。利用者の方からは「量や種類が」沢山あって、すごく豪華でびっくり!

「サイコロステーキが柔らかくて食べやすく、美味しかった」と、また、「サンドウィッチが美味しかった。もうお腹いっぱい!」等のお声をいただき、とても喜んでいただきました。

ちなみに1月と2月のイベント食は、すき焼きや寄せ鍋などの「一人鍋」が、毎年恒例になっています。食べるのが楽しいと、毎日の生活もイキイキとして、食欲もわいてきます。これからも、利用者の方に喜んでいただけるように、季節を感じていただけるようなメニューを献立に入れていくようにします。

年忘れ会

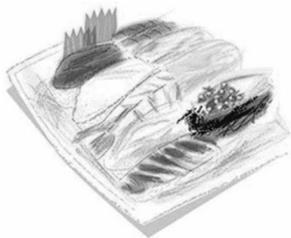
賀光寮

支援員 岸 瑞記

12月25日に、年忘れ会をおこないました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止対策として、密集、密接を避けるため1階の利用者の方と2階の利用者の方に分かれて行ないました。

また、例年忘れ会で行なっているビンゴ大会については、日程を変更して別日に行うこととなりました。



食事のみの年忘れ会になつてしまいましたが、利用者の皆様は思い思いに、お寿司、一口カツなどの会食を楽しまれました。

編集後記

3月に入り、自然界では、木の芽やつぼみが膨らみ、春の訪れが感じられます。昨年は新型コロナウイルスの感染防止のため、外出や多くの人が集まることなど、色々と自粛せざるを得なくなり、様々な行事やイベントが中止となり、

年忘れ会の終了後に、参加された利用者の方に洗剤とみかん(事情により果物を食べられない方にはカロリーオフの飴を)、マスクを配布しました。次年度は、新型コロナウイルスの状況を見ながら、1年の締めくくりとして楽しんでいただけるような、年忘れ会にします。

かんばろう!



さみしい一年でしたが、今年度は新型コロナウイルスが終息し、3密を気にせず会話を楽しみたいですね。

今回の『きずな』はコロナ禍の中ですが、感染防止対策をして利用者の皆さんに楽しんでいただけるよう、工夫して実施した行事について、掲載しました。